

充実した6年間の学校生活が 希望進路の実現につながる

「人間形成と大学進学」を教育目標とする城北中学校・高等学校は、豊かな人間力とともに確かな学力を養い、毎年難関大学に多数の合格者を輩出している男子進学校です。同校が力を入れる進路イベントに積極的に参加する生徒たちの様子や、昨年度からスタートした順天堂大学との高大連携プログラムなどについて、進学指導部長の高橋慶臣先生に伺いました。

中学から学外のイベントに参加し 文理融合の必要性を知る

教育目標の一つに「大学進学」を掲げる城北中学校・高等学校では、生徒が「大学で何を学びたいか」を見つけ、学問のおもしろさに気づいて将来のビジョンを描けるように、早い段階から進路について考える数多くのプログラムを実践しています。また、外部のイベントへの積極的な参加も促しています。

「文系・理系の枠を超えて視野を広げてほしいという意図で、大学などの教育・研究機関が中高生向けに行っているさまざまな講座・イベントを常に紹介しています」と話すのは進学指導部長の高橋慶臣先生です。「大学病院が主催する医療系のイベントに参加した生徒が、弁護士に会って話を聞くイベントにも足を運んでいました。『自分は理系だからこういうイベント』という発想ではなく、『おもしろそうだな』と思うものに積極的に参加してくれていることをうれしく思います。中学から参加する生徒も増えてきました」と続けます。

東大のメタバース工学部が主催した「人工知能技術と金融サービス」というテーマのイベントにも、文系・理系を問わず多くの生徒が参加しました。事後の感想文には、「文系・理系、両方の勉強が大切だと感じました」という声が多かったそうです。高橋先生は、「中学生のうちに

文理融合の必要性に気づくことは大切です。こうしたイベントに参加して、自分で感じ取る体験は、学問への興味につながり、意欲的に学んでいくきっかけになります」と強調します。

大学や社会を知る豊富な機会 人に会い、話を聞き、視野を広げる

中1から進路に向き合う機会の一つとして配布されるのが、毎年作成されている「進学情報資料集」です。大学入試の動向や結果分析、卒業生からのメッセージを集めたこの冊子は、生徒たちにとって心強い1冊となります。早い段階から、大学入試の実態に触れることができ、特に身近な先輩の手記は、『参考になるので過去のものも読みたい』と進学相談センターに来る生徒も多くいるとのこと。

中3では、「職場訪問」が実施されます。訪問先は、出版・金融・製薬などさまざまな業界の企業のほか、法律事務所や中央官庁など、多岐にわたります。この時期に行われる講演会や職場訪問は、社会にどのような仕事があるのかを知り、「働く」ということのイメージを膨らませる、貴重な機会となります。JALのパイロットの方による、「中高時代に学ぶ英語が、実際に現場で使う英語とどうつながるのか」というテーマの講演会は毎年好評で、多くの生徒が関心を寄せて参加します。

中3・高1の時期に行われる「自分の将来を考える講演会」は、社会人であるOBのほか、保護者にも協力を仰ぎ、職業や進路選択について語ってもらうイベントです。「生徒はとても熱心に話を聞いています。昨年まで美術系・音楽系の大学に進学する生徒はほぼゼロでしたが、今年は増えました。こうしたイベントなどで多くの人の話を聞き、いろいろな世界を知って視野を広げられたことが影響してい



大学入試についての最新情報が集まる進学センター。各大学の過去問題集を利用できるほか、自習スペースも設けられており、意欲的な学びをサポートします

ると感じます」と高橋先生は分析します。

高2からは、卒業生を学校に招いた「入試懇談会」が行われます。講演形式ではなく、少人数の生徒が卒業生を囲む座談会風の催しなので、質問をしやすいのが特徴です。卒業生は後輩のために受験や大学生活などについて、貴重なアドバイスをしてくれます。

東大5名を含め 国公立大学に87名が現役合格

未来への視野をさらに広げる取り組みとして昨年度からスタートしたのが、順天堂大学との高大連携プログラムです。順天堂大学医学部附属病院の病理医の先生を招いて行われた、病名のネーミングを体験する講座や、医学部生が使用する施設・設備で模擬手術を体験するプログラムなどが実施されています。高橋先生は、「順天堂大学には『健康総合大学』というコンセプトがあります。データサイエンスや理学療法など、多様な分野から医療に向き合い、『チーム医療』につながる学びを実践する大学なので、医師のほかにも、人を支えるためにはいろいろな職業の人がいることを生徒に知ってほしいと思います」と話します。

学習面での取り組みについて高橋先生は、「模試を受けて、現在の学力を知ったり、過年度比較（先輩の代のデータとの比較）をしたりするだけでなく、過去の自分と比較してどのように成長したいのか、そのためにどう取り組むかを考えることが重要です」「1週間の学習計画を立て、週の終わりにどこまで達成できたか、できれば



キャリア教育の一環として行っている職場訪問。実際に社会で働く方からお話を聞き、さまざまな業界の「今」や「仕事をする事」について知ります

なぜできなかったのかをきちんと確認するように指導しています」と続けました。同校には毎朝1限の前に0限という自主的な学習をする時間があります。生徒たちはこの0限を活用するなどして、振り返りを継続し、着実に成長していくとのこと。2024年の卒業生は、東京大学5名を含め国公立大学に87名、早慶上理に252名が合格しました。「今後も、生徒たちが興味のあるものを見つけられるような取り組みを拡充していきます」と言う高橋先生は、最後に、このようなメッセージを送りました。

「本校は自由な校風なので、伸び伸びと活動できます。進路を考えるイベントにも友だちを誘うなどして楽しんで参加してほしいと思います。何事にも積極的にかかわっていく姿勢こそが、6年間の学校生活を充実したものにします。そして6年間で充実している生徒ほど、大学進学でも良い結果が得られ、希望する進路を実現しています。自分から動いて楽しんでください」



順天堂大学との高大連携プログラムでの1コマ。実際に大学で使われている機器に触れて体験することで、生徒たちは大学での学びを体感し、将来の自分をイメージすることができます

学校の プロフィール

城北中学校・高等学校

- 所在地
〒174-8711
東京都板橋区東新町2-28-1
東武東上線「上板橋」駅より徒歩10分
東京メトロ有楽町線・副都心線「小竹向原」駅より徒歩20分
- TEL 03-3956-3157
- HP www.johoku.ac.jp

《各種行事日程のお知らせ》



※学校説明会などの情報は
上記よりご確認ください。